

学校名	南アルプス市立 白根源小学校

活動のテーマ	自分の命や安全を、自分で守ろう　そして　周りに気配りできる人になろう
主な教科領域等	教科領域（　道徳　特別活動　社会科　）
活動に参加した児童生徒数	（　全学年　　1 1 4人）（複数可）
活動に携わった教員数	1 6人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	3 2　　人　【 保護者 ・ 地域住民 ・その他（　　）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	平成　3 0年　5月1日　　～　平成　3 1年　　1月　2 3日
想定した災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震 ・津波・台風・ 洪水 ・ 河川氾濫 ・ 土砂 ・その他（　　）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

活動のテーマ　「自分の命や安全を、自分で守ろう　そして　周りに気配りできる人になろう」
 学校教育目標「ふるさとを愛し、人間性豊かに、自ら考え、未来にたくましく生きぬく子ども」の具現化
 ・学び合いという視点　　・判断力の育成　他者意識の育成

本校における防災教育は、本校の学校教育目標に到達することを目指した、学年の系統性を踏まえた本校独自の全校的な教育活動である。地域の特色、学び合いによる授業づくり、家庭や地域との連携を土台として、防災授業や防災体験学習、避難訓練等が計画され、実施することをねらいとしている。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

本校の学校教育目標に到達することを目指した、学年の系統性を踏まえた本校独自の全校的な教育活動

・防災教育授業

1年生「地震が起きたらどうするの」

学校生活で地震が起きたら、場所ごとにどんな危険があるのかをクイズ形式にして学びます。その時、自分たちの身をどうやって守っていけばよいかを考えていきます。

4年生「災害から身を守ろう」

地域の地形に目を向け、近くの川に洪水が起こったら、わたしたちの住む家はどうなるのかを学びます。その時、自分がどんな行動をとればよいか、みんなで考えていきます

5年生「地震から身を守る」

地震が起こると、私たちの生活や地域はどう変わっていくのかを想像し、その時、家や地域では、どう行動していけばよいかを話し合います。また、自分のためだけでなく、人のためにできることをみんなで考えていきます。

・防災体験学習

2年生「火事・煙体験」

南アルプス消防署に協力していただき、煙ブースの中で避難体験をする。

3年生「地震・起震車体験」

山梨県立防災センターに協力していただき、起震車で地震体験をする。

6年生「防災マップづくり」

南アルプス危機管理室の方に協力していただき、地域の危険が予想される場所のハザードマップをつくる。
 本年度は、昨年度研究した実践授業を継続、改善し、とりわけ防災マップづくりの活動を授業実践していく。

・避難訓練

防災講話のある引き渡し訓練、予告なしの避難訓練など、目的を変えながらの訓練を年に5回

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

- ・校内研究会にて、資料や研修会の様子を環流報告し、被災地の現状とこれからの防災教育について考え、話し合う機会をつくることができた。
- ・助成金でプロジェクターを購入することで、ある程度の大きさの施設において、大人数に対して映像として被災地の様子や、関係する映像を見させることができた。より鮮明な映像により子どもたちは、具体的にイメージすることができ、教育効果が高かった。
- ・これまでの防災教育の授業を振り返りながら、それぞれが授業改善や避難訓練の改善を行うことができた。
- ・児童の反応もよく映像によってイメージすることができたので、これからもプロジェクターを活用し、防災に関する地震映像の効果的な使用を考えていきたい。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

- ・災害について理解を深め、災害に適切に対応し、自分の命や安全を、自分で守ろうとする意識を高め、他の人々の安全にも気配りできる人となるという気持ちが少しずつ育ってきている。
- ・地域や保護者と連携し、授業を参観してもらうことで、地域の防災に関する意識を高め、地域の特色をふまえた防災教育を行えるようになってきている。
- ・1年だけの活動とならないように、系統的に積み上げ、学ぶことができる教育課程をつくることができた。
- ・本年度は、昨年度研究した実践授業を継続、改善し、テーマに沿ったよりよい授業をつくることができた。
- ・本年度は、昨年度の活動だけでなく、6年生「防災マップづくり」を新たに実践し、南アルプス危機管理室の方に協力していただき、地域の危険が予想される場所のハザードマップをつくることができた。
- ・5年生の授業参観で防災授業を行い、保護者に参加してもらいながら、親子で家庭内DIGの取り組みを行なった。保護者や地域とつながることでより防災の意識を高めることができた。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

- ・防災教育を教えられるという意識から、自分で考え、判断することが大切であるという感想を持つ児童が多くなってきているのが大きな変化である。
- ・マニュアルを守るのではなく、さまざまな可能性を想定し、そうした状況において、いかに行動していくかという判断力がついてきたように感じる。
- ・避難訓練も工夫したものになっており、実践的なものになってきているので、子どもたちの避難訓練に参加する態度がより真剣さが増してきた。

③教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

- ・教師間では、教育課程に位置づけられ、継続した指導が可能になってきている。授業をする際も昨年度のものがあるので、実践しやすい環境ができています。
- ・研究会において、本研修会の活動を環流報告することで、身近にある災害に対する意識や防災教育への意識を高めることができた。
- ・地域や保護者にも協力、参加をお願いし、参加してもらう活動を多くすることで、防災教育に対する理解を得られるようになってきてはいるが、まだ認識度、理解度は高くない。

5) 自校の実践で工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

- ・継続的で、系統的な防災教育と実践によって6年間で本校独自のプログラムが受けられるようにした点
- ・保護者の参加や地域の人材を活用し、地域や学校に起こりうる災害に視点を当てた本校独自の防災教育にした点

6) 実践から得られた教訓や課題と次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- ・授業については、教えるという観点でなく、地域や学校に起こりうる災害を想定し、その中での子どもの決断力判断力を培うものにしていかなければならない。
- ・自助だけでなく、共助という視点は、大切だが、いかにこの共助の視点を育てていくかが課題である。
- ・保護者への認知度は、まだまだなので、お便りや参加できる活動を増やすなどして認知度と理解度を上げていきたい。

03. 山梨県 南アルプス市立白根源小学校 別添資料

- ・ 防災教育 指導案
- ・ 源小防災の日 6 学年防災教育指導案
- ・ 環境教育実践 第 5 学年 防災教育

【一人一実践】平和教育・環境教育・人権教育 実践

白根源小学校 4年		〔実践者氏名〕 河野 薫理	
実践した時期	2018年12月11日(火)		
実践した内容	平和教育 ・ 環境教育 ・ 人権教育 ○をつける		
実践したのは	〔総合的な学習〕の授業として〔5〕時間／ 授業外〔 〕で〔 〕時間		
題 材	防災からみた 環境教育		
ね ら い	・洪水について、理解することができる。		
	・洪水が起きたとき、身を守る行動がとれるように考えることができる。		
使用・引用・参 考にした文献名			
【指導の概要(流れ)】			
時	ねらい	学習活動・内容	主な評価基準
1	身近に起こる可能性のある自然災害について知る。 (写真で確認する。)	<ul style="list-style-type: none"> 我が国で起こる自然災害について考え、多くの災害が起きていることを知る。(地震・火山噴火・津波・台風・・・) 自分たちの地域で起こりうる災害について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・自然災害について関心を持つことができる。 思・自然災害の種類を考えることができる。
2 3	御勅使川の治水について考える。 (3時はゲストティーチャーAに教えてもらう。担任はコーディネーターをする。)	<ul style="list-style-type: none"> 昔の人たちが洪水と戦ってきたことを思い出す。 昔は洪水が周期的に起こっていたにも拘らず、現在は洪水が治まっている。今と昔の川の様子を比べて、どんな工夫がされているのか気づく。 今後洪水が起こる可能性がないのか考える。 御勅使川は今も洪水を起こす危険性がある川であることを知る。(ゲストティーチャーA) 	<ul style="list-style-type: none"> 関・川の様子について意欲的に考えることができる。 昔の御勅使川の様子について、興味を持って聞くことができる。 知・洪水が起きたときの御勅使川の流れ方を知ることができる。
4 本 時	洪水が起きたとき、安全に避難できる場所を考える。 (子どもたちが考えた避難場所が正しいかどうかゲストティーチャーBに判断してもらう。)	<ul style="list-style-type: none"> 地区ごとのグループになり、自分たちが安全に避難するためには、どこへ逃げたら良いのか、また、災害が起こったときには何を持って避難したら良いか考える。 自分たちが考えた避難場所が適切かどうかを知る。 ゲストティーチャーBに判断してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 思・避難場所を意欲的に考え、自分の考えを友だちに伝えることができる。 知・自分たちの避難場所を知ることができる。
5	自然災害が起きたとき、安全に避難する方法、日頃から準備しておかなければならない物を学ぶ。(ゲストティーチャーBに教えてもらう。担任はコーディネーターをする。)	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害が起きたとき、安全に避難する方法を学ぶ。 自然災害が起きたときに備えて、準備しておかなければならない物を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 関・興味を持って話を聞くことができる。 知・安全に避難する方法・日頃から準備しておかなければならない物について知ることができる。

【一人一実践】平和教育・環境教育・人権教育 実践

白根源小学校 5年		〔実践者氏名〕 望月 宏樹	
実践した時期	2019年 1月29日(火)		
実践した内容	平和教育 ・ 環境教育 ・ 人権教育 ○をつける		
実践したのは	〔道徳, 総合的な学習〕の授業として〔5〕時間／ 授業外〔 〕で〔 〕時間		
題 材	防災教育		
ね ら い	・地震災害について理解することができる。		
	・地震が起きた際、予想される危険から、避難方法や予防策等について考えることができる。		
使用・引用・参考にした文献名	総務省 南海トラフ地震ビデオ		
【指導の概要(流れ)】			
時	ねらい	学習活動	評価
1	○地震について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料を使って、視覚的に地震の仕組みや災害の怖さを伝える。 地震の起こり方や種類を知る。 マグニチュードと震度の意味を知る。 有野地区周辺の地震の歴史について知る。 今後想定されている巨大地震についての理解を深めさせることで、地震対策について考えていく必要性を考えさせる。 	<p>関地震災害について意欲的に学習に取り組んでいる</p> <p>知地震災害について理解することができる</p>
2	○地震における様々な災害について理解し、自助、共助について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 地震による一次災害、二次災害を知る。 ゲストティーチャーによる解説を聞く。 パワーポイントを使い、避難所で起きていた2次災害、それに対応していた子どもたちの話を紹介する。 避難所の写真から、どんなことに心配があるかと、どうすればよいかについて、班で話し合う。 「自助、共助」の言葉を理解する 	<p>関身近な地域に起きた地震災害について意欲的に学習に取り組んでいる</p> <p>思地震災害時の考えられる被害から、自助、共助の働きについて考えることができる</p>
3	○地震が起きた際、避難方法や予防策等について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 家の中を想定し、DIGに取り組む。 危険な場所ごとに避難行動を考え、付箋を貼ったり、書き込んだりする。 班ごとに被害場所や避難行動を発表する。 <p>※家庭学習で、家庭内DIGに取り組む。</p>	<p>思地震が起きた時の安全な避難方法について考えることができる。</p> <p>技地震が起きた時への予防対策や避難方法について話し合うことができる。</p>
4	○普段の生活から考えられる地震災害を予想することができ、地震災害に向けて自分たちができることについて考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に、地震が起きた際の考えられる被害を予測させる。 もとの写真から、被害にあった様子に張り替え、児童の予想と比較する。 地震という災害に対して、自分たちにできることを考えさせる。 KJ法を用いて、自分たちでできる「自助・共助」について話し合う。 	<p>思地震が起きた時の災害の様子や被害の状況を考えることができる。</p> <p>技地震が起きた時の予防対策や避難方法について話し合うことができる。</p>

【一人一実践】平和教育・環境教育・人権教育 実践

白根源小学校 1・2年生		〔実践者氏名〕 金井 厚子 依田 さや香	
実践した時期	2018年12月1日(金)		
実践した内容	平和教育 ・ 環境教育 ・ 人権教育 ○をつける		
実践したのは	〔道徳 特別活動〕の授業として〔 4 〕時間 / 授業外〔 〕時間		
題 材	防災から、自分たちの環境を考える		
ね ら い	・地震が起こった時に、どこが危険か、自分たちの環境を見直すことができる。		
	・自分たちの命をどうやって守っていけばよいか考えることができる。		
使用・引用・参考にした文献名			
【指導の概要(流れ)】			
時	ねらい	学習活動	主な評価規準
1	地震が起こるとどうなるのかイメージを持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験談(小学生の作文)を聞く。 ・校内でどんなところが危険なのかを予想する。 ・地震が起こった時の様子を映像で観る。(ゲストティーチャー資料提供) ・どんなことが起こったのか考え、危険についてまとめる。また震度についても知る。 ・過去に起こった地震の写真を見る。 	<p>関 地震について関心を持つことができる。</p> <p>知 地震の危険についてどんなことがあるのか考えることができる。</p>
2 3	地震が起こった時を想定して校内の危険箇所を探し、みんなに伝えることができる。そして、みんなが危険を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごと校内(図書室・グラウンド【遊具】・家庭科室・音楽室・教室)を探検し、危険なところを見つける。タブレットに記録する。 ・見つけたところがなぜ危険なのかをまとめる。 ・なぜ耐震対策がされているのか見つけた場所について考える。 ・みんなに危険箇所を知らせ、学校の中の危険について話し合いをする。 ・危険の大きさについて考えさせる。 ・子どもたちが考えたことを「○○な危険」に沿って教師がまとめる。 ・校内の危険な場所に(危ないマーク)を貼る。 	<p>関 危険箇所を意欲的に探すことができる。</p> <p>友 友達と協力して発表の練習ができる。</p> <p>思 危険箇所を友達と相談しながら想像することができる。</p> <p>校 校内には危険な場所があることに気づくことができる。耐震対策がされている場所もあることに気づくことができる。</p> <p>表 言葉や絵や写真を使いながら危険箇所について話すことができる。</p>
4 本時	地震が起きた時、どのように命を守るか考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の危険をもう一度確認する。 ・地震クイズを解いていく。 ・ゲストティーチャーのお話を聞く。 ・地震から身を守るために大切なことは何か考える。 	<p>関 自分の命を守るためにできることはどんなことなのか意欲的に考えたり話したりすることができる。</p> <p>思 地震が起きた時のことを想像しながら、自分なりの危険回避の方法を話すことができる。</p> <p>危 危険を回避するためには、日頃の準備や訓練が大切であることに気づくことができる。</p>

【一人一実践】平和教育・環境教育・人権教育 実践

白根源小学校 5年		〔実践者氏名〕 今澤 格	
実践した時期	2017年12月1日(金)		
実践した内容	平和教育 ・ 環境教育 ・ 人権教育 ○をつける		
実践したのは	〔総合的な学習〕の授業として〔4〕時間／ 授業外〔 〕で〔 〕時間		
題 材	防災からみた 環境教育		
ね ら い	・地震について理解し、自助・共助について考え、自分たちの生活環境を見直す。		
	・自分たちの環境から、考えられる地震災害を考えることができる。		
使用・引用・参考にした文献名			
【指導の概要(流れ)】			
時	ねらい	学習活動	評価
1	○地震について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 地震について知っていることや心がけていることを全体で共有する。 映像資料を使って、視覚的に地震の仕組みや災害の怖さを知る。 有野地区周辺の地震の歴史について知る。 今後想定されている巨大地震についての理解を深めさせることで、地震対策について考えていく必要性を感じる。 	<p>関地震災害について意欲的に学習に取り組んでいる</p> <p>知地震災害について理解することができる</p>
2	○地震における様々な災害について理解し、「自助・共助」について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 地震による一次災害、二次災害を知る。 ゲストティーチャーによる解説を聞く。 パワーポイントを使い、避難所で起きていた2次災害、それに対応していた子どもたちの話を知る。 地震が起きるとどうすることもできない状況に触れ、災害の怖さと防災の大切さについて考える。 「自助・共助」の言葉を理解する 	<p>関身近な地域に起きた地震災害について意欲的に学習に取り組んでいる</p> <p>思地震災害時の考えられる被害から、自助、共助の働きについて考えることができる</p>
3	○地震が起きた際、避難方法や予防策等について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭内DIGに取り組む。 危険な場所ごとに避難行動を考え、付箋を貼ったり、書き込んだりする。 班ごとに被害場所や避難行動を発表する。 	<p>思地震が起きた時の安全な避難方法について考えることができる。</p> <p>技地震が起きた時への予防対策や避難方法について話し合うことができる。</p>
4 本 時	○普段の生活から考えられる地震災害を予想することができ、地震災害に向けて自分たちができることについて考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に、地震が起きた際の考えられる被害を予測する。 もとのイラストから、被害にあった様子の写真に替え、自分の予想と比較する。 地震という災害に対して、自分たちにできることを考える。 意見をグループ分けし、自分たちでできる「自助・共助」について話し合う。 	<p>思地震が起きた時の災害の様子や被害の状況を考えることができる。</p> <p>技地震が起きた時の予防対策や避難方法について話し合うことができる。</p>

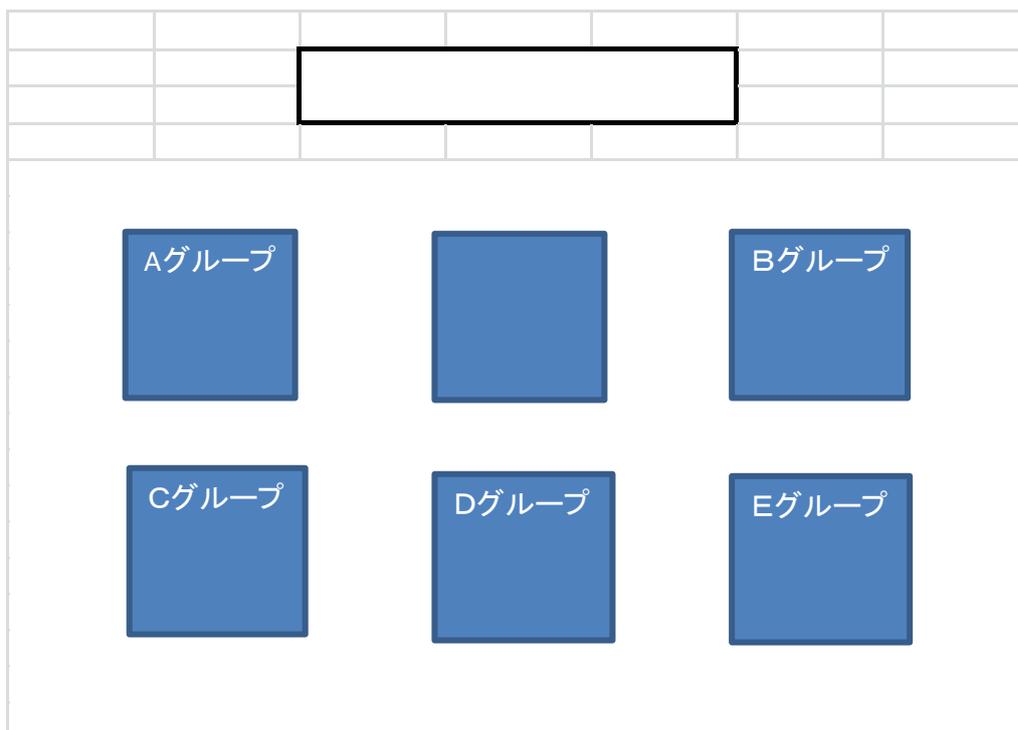
源小防災の日 6 学年防災教育指導案

1. 単元名「親子で防災マップを作ろう」
2. ねらい 防災の視点から地域の実態を捉えさせ、防災意識を高める。
3. 場所 図工室
4. 展開

	学習内容と児童の動き	指導上の留意点	備考
導入	① グループ分けと環境づくり ・登校班を中心に4つのグループを作る。 A有野西・源西区（3人） B有野北①（5人） C有野北・育成②（4人） D有野東，南（2人） E北新田（7人） ・児童，保護者へ今日の作業とねらいを説明する。	・登校班を中心に，近くに住んでいる人同士で小グループを形成する。 ・グループごとに該当地図を配布し，作業用具を配る。	
展開 1	② 通学路の記入 ・通学路は 蛍光ペンのピンク色 でなぞる。 ③ 集合場所の記入 ・集合場所には大きい 赤 シールを貼る。 ④ 【危険個所の確認】 a 橋 …… 緑サインペン b 川 …… 蛍光ペン水色 c ブロック塀…… 蛍光ペン黄色 d 危険個所 ……付箋で記入（端的に書かせる） （自然災害面での危険，犯罪面での危険，交通面での危険など） ⑤ 【安全な場所の確認】 ・「子ども110番の家」を別紙資料から確認し， 黄 シールを貼る。 ・避難場所・避難所を別紙資料から確認し， 蛍光ペンオレンジ で囲む。 ・（わかる範囲で）消火栓，貯水槽を確認し， 青 シールを貼る。 ⑥ 【近所の人を救助】（避難行動要支援者） ・自然災害などで救助が必要な人の家は，小さい 青 シールを貼る。 ※目，耳，手足は不自由な人 （ここは保護者の協力をお願いする。わかる範囲で構わない） ⑦ その他必要な項目（時間を見て検討）		・付箋を書かせる際，どういった場面で危険なのか明記させる。（自然災害なのか，防犯面なのか，交通面なのか） ・作業が終わっているグループには，通学路以外の該当箇所にも取り组ませ，時間調整を行う。

展 開 2	⑧ グループでの発表資料作り 1. 私たちの通学路の危険個所の紹介 ※どこが危険なのか、なぜ危険なのか、 災害が起こると、どんな被害状況が考えられるか 2. 安全な場所の紹介 ※安全な場所はどこなのか 3. もし災害が起きて通学路が使えなくなったときの迂回の検討 (時間をみて検討) ⑨ グループ発表 (発表2分, 質疑2分) ⑩ 三木さんによる解説	
ま と め	⑪ 本時の振り返り	

・場所：図工室



・用意するもの

- シール (4種類) 大きい シール シール, シール, 小さい シール
- 蛍光ペン (ピンク, 青, オレンジ, 黄色)
- サインペン (緑)
- 付箋
- 「子ども110番の家」の資料
- 避難場所, 避難所の資料
- 源防災マップ (掲示) ※消火栓等確認用

防災マップまとめシート (_____ グループ：名前 _____)

防災マップを作ってみてわかったこと、感じたことをまとめ、発表しましょう

1. 私たちの住んでいる地域，通学路の危険なところ		
危険なところ	どんな時（自然災害， 交通，犯罪等）	理由
2. 安全な場所		
三木さんの話をメモしよう		

環境教育実践 第5学年 防災教育

南アルプス市立 白根源小学校

指導者 望月 宏樹

1. 題材名 地震災害の対処について

2. 題材について

近年日本各地で起きている自然災害や、それに伴った被害の様子から、学校現場における防災教育の重要性が注目されている。特に平成23年3月に発生した東日本大震災を機に、マニュアルにとらわれた防災訓練や防災教育をするのではなく、児童一人ひとりが状況に応じて、自分の命は自分で守ることができる自助の意識、状況から自分のできることを考え行動できる共助の意識等を育てる、主体性を育む防災教育の充実が重要視されている。

しかし、現代の家庭環境や地域の実態を見ると、昔より地域の中で助け合う“共助”の面が薄れてきている。親の共働きや核家族化、行き届いた行政サービスの普及により、地域とのつながりは薄くなり、自然災害が起きたときの地域での助け合いが困難になっているのが現状だ。特に子どもたちは災害が起きたとき、周りの大人の指示に従うだけの“お客さん”状態になっている。災害が起きている中、周りの指示を仰いでいるだけの状態より、自ら安全な行動ができ、また助け合いの輪に入っていく、家族や地域のために行動できる子どもを育てていくことが、より多くの命を救うことにつながる。もし災害が起きたときに、自ら安全な行動ができるような態度や能力を身につけさせ、家族や地域の安全に向け行動できる防災教育を進めていくことが大切だと考える。

児童はこれまでに、4年生時に御勅使川氾濫による災害とその避難について学習を行っている。4年生社会科の学習内容と連携させ、身近にある川がかつて大きな水害を起こしていたこと、それに伴い歴史的な水害対策が実施されていたことなど、身近な地域に起こった災害について学習している。以上の学習を踏まえ、市教委からゲストティーチャーを招き、自分たちが水害にあった時どう避難したらよいか等の防災対策について専門的な助言を頂きながら深めることができた。5年生においては、災害時に高学年として主体的に行動できる力、そして周りの人と協力して災害に立ち向かえる力、この自助と共助について理解し、行動できる児童を育てていきたい。

指導に当たっては、日本各地で発生している地震をメインの災害として扱っていく。特に本校の学区に当たる有野地区の歴史的災害の記録、付近にある活断層にも注目し、地震災害の危険性について身近な教材を通し理解させる。また地震がもたらす1次被害、2次被害やそれに伴う避難方法について理解させる。特に自助と共助の理解については、ゲストティーチャーを招き、避難所で実際にあった助け合いの実例を紹介し、より明確に理解できるよう丁寧に行う。自助、共助の重要性を理解した上で、自宅における被害予測や防災状況を確認させ、よりよい防災対策、家庭での避難方法について考えさせる。また、これまでの学習を踏まえ、今後予想される大地震に向け、自分自身でできることは何かを話し合わせることで、またその様子を保護者の方々に見ていただくことで、学校の防災教育から家庭、地域の防災意識を高めていけるような学習にしていく。

3. 単元目標

- ・地震災害について理解することができる。
- ・地震が起きた際、予想される危険から、避難方法や予防策等について考えることができる。

4. 指導・評価計画

時	ねらい	学習活動	評価
1	○地震について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料を使って、視覚的に地震の仕組みや災害の怖さを伝える。 ・地震の起こり方や種類を知る。 ・マグニチュードと震度の意味を知る。 ・有野地区周辺の地震の歴史について知る。 ・今後想定されている巨大地震についての理解を深めさせることで、地震対策について考えていく必要性を考えさせる。 	<p>関地震災害について意欲的に学習に取り組んでいる</p> <p>知地震災害について理解することができる</p>
2 本 時	○地震における様々な災害について理解し、自助、共助について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震による一次災害、二次災害を知る。 ・ゲストティーチャーによる解説を聞く。 ・パワーポイントを使い、避難所で起きていた2次災害、それに対応していた子どもたちの話を紹介する。 ・避難所の写真から、どんなことに心配があるかと、どうすればよいかについて、班で話し合う。 ・「自助、共助」の言葉を理解する 	<p>関身近な地域に起きた地震災害について意欲的に学習に取り組んでいる</p> <p>思地震災害時の考えられる被害から、自助、共助の働きについて考えることができる</p>
3	○地震が起きた際、避難方法や予防策等について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が身近に起きることとそれに備えることを確認する。南海トラフの想定を確認。 ・家の中を想定し、DIGに取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> ①危険な場所を探す ②避難経路を考える 避難場所を確認する ③備蓄品や防災備品について確認する ④その他 考えられる心配 <ul style="list-style-type: none"> ☆家の中の映像 ・危険な場所ごとに避難行動を考え、付箋を貼ったり、書き込んだりする。 ・いくつか発表してもらう。 ・自助と共助の意味を理解し、家庭で自分たちのできる自助について班ごとに話し合う。どうすることが大切か。 ・本日の感想をまとめる。 	<p>思地震が起きた時の安全な避難方法について考えることができる。</p> <p>技地震が起きた時への予防対策や避難方法について話し合うことができる。</p>
4	○普段の生活から考えられる地震災害を予想する	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を基に、地震が起きた際の考えられる被害を予測させる。 ・もとの写真から、被害にあった様子に張り替 	<p>思地震が起きた時の災害の様子や被害の状況を考えるこ</p>

<p>ことができ、地震災害に向けて自分たちができることについて考えることができる。</p>	<p>え、児童の予想と比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震という災害に対して、自分たちにできることを考えさせる。 KJ法を用いて、自分たちでできる「自助・共助」について話し合う。 	<p>とができる。</p> <p>技地震が起きた時の予防対策や避難方法について話し合うことができる。</p>
---	--	---

5. 本時の学習

- (1) 日時 平成31年1月29日(火) 2校時(9:35~10:25)
- (2) 場所 5年1組教室
- (3) ねらい 普段の生活から考えられる地震災害を予想することができ、地震災害に向けて自分たちができていることについて考えることができる。

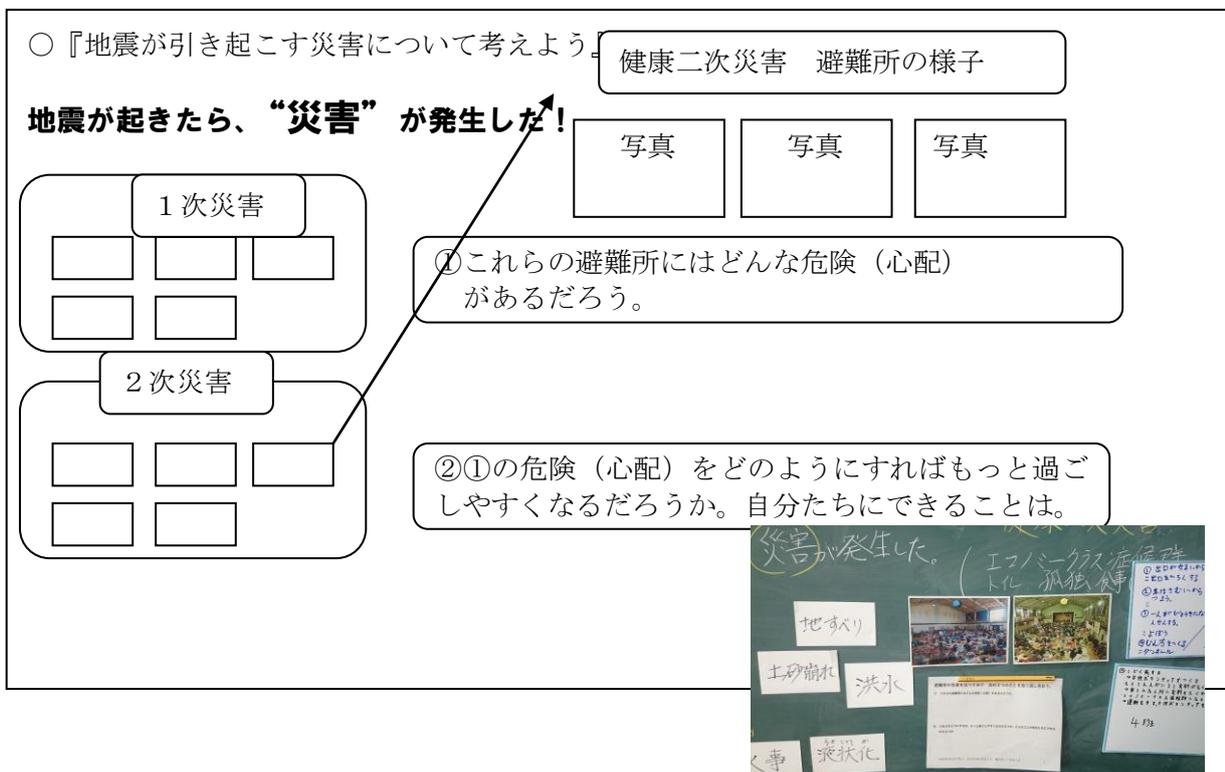
〈2時間目〉

ねらい 地震における様々な災害について理解し、「自助・共助」について考えることができる。

	学習内容	指導上の留意点	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時の内容を振り返る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>地震が引き起こす災害について考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 地震による一次災害、二次災害について考える。 ○前回見た映像や経験、体験からどんな災害が起きるか振り返る。 一次災害 建物倒壊 地すべり 土砂崩れ 液状化 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の感想から本時につながる内容を取り出して紹介し、本時の学習に見通しを持たせる。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○他に、一次災害が起きると次に起きると考えられる災害を考える。 隣の人と相談して、考えを発表する。 →火災、停電 ライフラインの寸断 など (児童が出したものの意外を確認する) ○一次災害によって引き起こされる二次災害があるということを確認し、避難場所では、健康二次災害があるということに注目させる。 ・ゲストティーチャーの解説を聞く。 ○避難所の写真を数枚見て、これらの避難所にはどんな危険(心配)があるか班で話し合い発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害の意味についておさえる。 ・1次災害…地震が直接的原因で発生したもの。 ・2次災害…1次災害をきっかけに連鎖的に発生したもの。 ・津波や火災だけでなく、避難所における健康二次被害も存在することをゲストティーチャーについて解説してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードで移動できるように ・ゲストティーチャー

	○それらの危険（心配）をどのようにしていけばよいか，自分たちができることを話し合い発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自助の限界と共助の重要性について解説してもらおう。 ・自分のことだけでなく，他の人のことを考えて助け合うことこそ「共助」ということを確認。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「共助」について考え，ポートフォリオに本時の感想を書く。 ・発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画から学んだことや感じたこと，疑問に思ったことなど書かせる。 	

板書計画



6.成果と課題

- 将来起こりうる地震に対する意識が高まり，自分たちがどう行動するか友だちと話し合うことで自分のやるべきことがわかるようになった。
- 一次被害については，子どもたちも予想していたが，健康二次被害については，予想することができず，そうした現状があることに驚いていた。そうした場面で自分たちに何ができるかを考えることで，共助の意識が芽生えてきた。
- 自助と共助についてさらに意識を高め，小学校6年間を通じて体系的な学習を取り組めるようにしていきたい。